

# 令和4年度確認申請書 第2号様式

学校法人都築教育学園  
鹿児島第一医療リハビリ専門学校

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	360 単位時間	240 単位時間	/
	作業療法学科	夜・通信	570 単位時間	240 単位時間	/
	言語聴覚学科	夜・通信	240 単位時間	240 単位時間	/
	柔道整復学科	夜・通信	480 単位時間	240 単位時間	/
	はり・きゅう学科	夜・通信	300 単位時間	240 単位時間	/
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「授業計画書（シラバス）」に実務経験のある教員の実務経験とともに、担当する授業科目を明記。「授業計画」は学科ごと学校HPにて公表  
<http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/school/curriculum/>  
 各学科授業計画>授業計画

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人 都築教育学園

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

次の都築教育学園 法人（第一工科大学）HPにおいて公表。 <a href="https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/post_files/material/52/files/2021/R2_jyuhou_yakuinmeibo.pdf">https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/post_files/material/52/files/2021/R2_jyuhou_yakuinmeibo.pdf</a> 鹿児島キャンパス > 大学案内 > 情報公開 > 役員等名簿
---

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会医療法人 雪の聖母会聖マリア病院 医師	2022. 2. 11 ～2024. 2. 10	危機管理対応
非常勤	株式会社「タワラヤ」社長	2022. 2. 11 ～2024. 2. 10	財 務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人 都築教育学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1 授業計画書の作成課程</p> <p>(1) 関連規則を遵守しつつ、より質が高く効果的な教育ができるよう、学科ごと検討を重ね、教務委員会、学科長会議等の審議を経て作成している。          なお、授業計画のうち、科目の修正、単位等の変更等、重要事項については学則・履修規程の変更として、学園理事会の審査・承認を受けている。</p> <p>(2) 科目ごとの到達目標、授業の進め方(担当、授業内容等)、使用教材、評価基準等を明示し、かつ、年度ごと、教育成果(試験成績等)、授業評価、公開授業、学生アンケートなどを踏まえて見直しを行っている。</p> <p>(3) 関連規則に基づくカリキュラム改正に当たっては、先行的に情報を収集し、教育に必要な教員の養成、教材等の確保を図り、授業計画に反映している。</p> <p>2 授業計画書の作成・公表時期          前年度3月には作成し、4月には学内WEB掲載版への掲載・各クラスへの製本版の設置を行うとともに、HP上にて広く公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>1 学内WEB掲載版への掲載・各クラスへの製本版の設置</p> <p>2 本校HPにおいて公表  <a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/school/curriculum/">http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/school/curriculum/</a>          各学科授業計画&gt;授業計画</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>1 科目に応じ、試験結果、出席状況、課題提出状況、実技の成績、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定(4段階)を行っている。</p> <p>(1) 試験は定期試験(前・後期)の他、小テスト・口頭試問などを実施している。</p>	

<p>定期試験不合格者には再試験を課している。(評価点は60点が最高点)</p> <p>(2) 出席日数が2/3に満たない者には定期試験の受験資格を与えないなど、確実な授業履修を担保している。</p> <p>(3) 臨床実習の評価は、実習指導者の評価とともに、実習記録・レポート作成などを基に総合的に評価している。</p> <p>2 学業不振の学生には、個別指導、補備教育などにより着実な履修を図っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1 客観的な指標の設定</p> <p>(1) 評価は、学年ごと前期及び後期に行っている。</p> <p>(2) 各授業科目の評価は100点を満点とし、科目ごとの評価点及び評価点に応ずる4段階の評語(優、良、可、不可)をもって評価の指標としている。</p> <p>(3) 学生の総合的な評価は、(2)の科目ごとの評価点を平均して、評価点及び評語並びに学年/学科内の成績順位をもって評価の指標としている。</p> <p>なお、評価点60点以上を合格(履修認定)とし、これ未満を不合格としている。</p> <p>2 成績評価の適切な実施</p> <p>(1) 成績評価の評価項目は、科目に応じて試験(定期試験、小テスト等)、課題、授業態度等とし、配点基準に基づき総合的に評価点を算定している。</p> <p>(2) 成績評価は学生本人に加え、保護者にも文書により通知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>本校HPにおいて公表</p> <p><a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/admission_policy/">http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/admission_policy/</a></p> <p>アドミッションポリシー</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1 卒業の認定に関する方針(進級の認定に関する方針も付記)</p> <p>(1) 進級の認定</p> <p>原則として当該学年において履修すべき全授業科目(実習を含む)に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。</p> <p>(2) 卒業の認定</p> <p>ア 卒業試験</p> <p>(ア) 卒業試験の受験資格は、卒業試験までに実施された全ての授業科目について合格した者に与える。</p> <p>(イ) 卒業試験の合格基準は、専門基礎科目及び専門科目の成績がそれぞれ60点以上であることを原則とする。</p> <p>イ 卒業の認定</p> <p>次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。</p> <p>(ア) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。</p> <p>(イ) 卒業試験に合格していること。</p> <p>なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。</p>	

<p>2 実施に係わる取り組み</p> <p>(1) 卒業認定に係わる事項は、進級認定とともに「履修規程」及び「学生便覧」に明記し学生に徹底するとともに、保護者説明会において周知している。</p> <p>(2) 学業不振の学生に対しては、適宜、認定基準に達しない状況を承知させ、個別指導、補備教育等により認定基準到達を図っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>本校HPにおいて公表  <a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/admission_policy/">(http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/admission_policy/)</a>            アドミッションポリシー</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	第一工科大学／都築教育学園HPにおいて公表 <a href="https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/exhibition/information/">https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/exhibition/information/</a> 鹿児島キャンパス > 大学案内 > 情報公開
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報－1（理学療法学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,300 単位時間/単位	1,815 単位時間/単位	540 単位時間/単位	945 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			3,300 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		115人	0人	6人	14人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1 授業方法及び内容
（1）授業科目に応じ、講義、実習（部外実習を含む）、実技等を組み合わせて実施
（2）各授業科目及び授業内容は、段階的・体系的に授業を組み立てるとともに、課題付与、小テスト、レポートの提出により、習熟度を確認している。
2 基礎分野、専門基礎分野、専門分野に区分し、学年ごと履修すべき科目及び単位（時間）を計画している。
成績評価の基準・方法
（概要）
科目に応じて、試験結果、出席日数、課題提出、実技、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定（4段階）を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要）
1 進級の認定
原則として当該学年において履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。

<p>2 卒業の認定</p> <p>次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。</p> <p>(1) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。</p> <p>(2) 卒業試験に合格していること。なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>1 オンライン授業（リモート、オンデマンド）及びe-ラーニングを導入</p> <p>2 特別講義、課外補講、個別指導等による学修意欲の振作、苦手科目の克服</p> <p>3 ナイトセミナー、集中模擬試験による国家試験対策</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100.0%)	0人 (0.0%)	26人 (96.3%)	1人 (3.7%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>医療・福祉（病院、介護施設、障害者・児童施設等）、保健（保健所、地域包括支援センター）、教育機関（特別支援学校、各養成校）、その他（自治体等）</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>1 病院等実習、卒業生（就職者）による講話</p> <p>2 就職説明会（年1回）、就職担当者及び担任教員による就職相談、面接指導等</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>国家資格（理学療法士）の取得</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
111人	8人	7.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振（就学意欲の喪失）、進路変更（経済的理由による就職を含む。）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>1 経済的理由を背景とする学生に対しては、各種教育支援制度（自治体・その他団体による奨学金、福祉資金等）の紹介及び手続支援を実施</p> <p>2 学業不振による者は、保護者及び実習先と連携し補備教育・個別指導等を実施</p>		



①学科等の情報－2（作業療法学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3, 630 単位時間/単位	1,135 単位時間/単位	1,400 単位時間/単位	1,095 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			3, 630 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		94人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1 授業方法及び内容 (1) 授業科目に応じ、講義、実習（部外実習を含む）、実技等を組み合わせて実施 (2) 各授業科目及び授業内容は、段階的・体系的に授業を組み立てるとともに、課題付与、小テスト、レポートの提出により、習熟度を確認している。
2 基礎分野、専門基礎分野、専門分野に区分し、学年ごと履修すべき科目及び単位（時間）を計画している。
成績評価の基準・方法
（概要）
科目に応じて、試験結果、出席日数、課題提出、実技、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定（4段階）を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要）
1 進級の認定 原則として当該学年において履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。
2 卒業の認定 次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。 (1) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。 (2) 卒業試験に合格していること。なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。
学修支援等
（概要）
1 オンライン授業（リモート、オンデマンド）及びe-ラーニングを導入
2 特別講義、課外補講、個別指導等による学修意欲の振作、苦手科目の克服
3 ナイトセミナー、集中模擬試験による国家試験対策

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100.0%)	0人 (0.0%)	15人 (83.3%)	3人 (16.7%)
（主な就職、業界等） 医療・福祉（病院、介護施設、障害者・児童施設等）、保健（保健所、地域包括支援センター）、教育機関（特別支援学校、各養成校）、その他（自治体等）			
（就職指導内容） 1 病院等実習、卒業生（就職者）による講話 2 就職説明会（年1回）、就職担当者及び担任教員による就職相談、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家資格（作業療法士）の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
78人	4人	5.1%
（中途退学の主な理由） 学業不振（就学意欲の喪失）、進路変更（経済的理由による就職を含む。）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1 経済的理由を背景とする学生に対しては、各種教育支援制度（自治体・その他団体による奨学金、福祉資金等）の紹介及び手続支援を実施 2 学業不振による者は、保護者及び実習先と連携し補備教育・個別指導等を実施		

①学科等の情報－3（言語聴覚学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	言語聴覚学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3, 2 3 5 単位時間/単位	2 405 単位時間/単位	50 単位時間/単位	720 単位時間/単位	0 単位時間/単位	60 単位時間/単位
			3, 2 3 5 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		76人	0人	6人	23人	29人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1 授業方法及び内容 (1) 授業科目に応じ、講義、実習（部外実習を含む）、実技等を組み合わせて実施 (2) 各授業科目及び授業内容は、段階的・体系的に授業を組み立てるとともに、課題付与、小テスト、レポートの提出により、習熟度を確認している。
2 基礎分野、専門基礎分野、専門分野に区分し、学年ごと履修すべき科目及び単位（時間）を計画している。
成績評価の基準・方法
（概要）
科目に応じて、試験結果、出席日数、課題提出、実技、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定（4段階）を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要）
1 進級の認定 原則として当該学年において履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。
2 卒業の認定 次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。 (1) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。 (2) 卒業試験に合格していること。なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。
学修支援等
（概要）
1 オンライン授業（リモート、オンデマンド）及びe-ラーニングを導入
2 特別講義、課外補講、個別指導等による学修意欲の振作、苦手科目の克服
3 ナイトセミナー、集中模擬試験による国家試験対策

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100.0%)	0人 (0.0%)	17人 (81.0%)	4人 (19.0%)
（主な就職、業界等） 医療・福祉（病院、介護施設、障害者・児童施設等）、保健（保健所、地域包括支援センター）、教育機関（特別支援学校、各養成校）、その他（自治体等）			
（就職指導内容） 1 病院等実習、卒業生（就職者）による講話 2 就職説明会（年1回）、就職担当者及び担任教員による就職相談、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家資格（言語聴覚士）の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83人	7人	8.4%
（中途退学の主な理由） 学業不振（就学意欲の喪失）、進路変更（経済的理由による就職を含む。）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1 経済的理由を背景とする学生に対しては、各種教育支援制度（自治体・その他団体による奨学金、福祉資金等）の紹介及び手続支援を実施 2 学業不振による者は、保護者及び実習先と連携し補備教育・個別指導等を実施		

①学科等の情報－4（柔道整復学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,910 単位時間/単位	1,580 単位時間/単位	420 単位時間/単位	200 単位時間/単位	0 単位時間/単位	710 単位時間/単位
			2,910 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		69人	0人	6人	10人	16人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1 授業方法及び内容 (1) 授業科目に応じ、講義、実習（部外実習を含む）、実技等を組み合わせて実施 (2) 各授業科目及び授業内容は、段階的・体系的に授業を組み立てるとともに、課題付与、小テスト、レポートの提出により、習熟度を確認している。
2 基礎分野、専門基礎分野、専門分野に区分し、学年ごと履修すべき科目及び単位（時間）を計画している。
成績評価の基準・方法
（概要）
科目に応じて、試験結果、出席日数、課題提出、実技、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定（4段階）を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要）
1 進級の認定 原則として当該学年において履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。
2 卒業の認定 次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。 (1) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。 (2) 卒業試験に合格していること。なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。
学修支援等
（概要）
1 オンライン授業（リモート、オンデマンド）及びe-ラーニングを導入
2 特別講義、課外補講、個別指導等による学修意欲の振作、苦手科目の克服
3 ナイトセミナー、集中模擬試験による国家試験対策

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100.0%)	0人 (0.0%)	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)
（主な就職、業界等） 医療・福祉（整骨院・接骨院、病院（整形外科）、介護施設等）、教育機関（各養成校）、その他（スポーツトレーナ、フィットネスクラブ等）			
（就職指導内容） 1 整骨院等人事担当者との面談、卒業生（就職者）による講話 2 就職担当者及び担任教員による就職相談、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家資格（柔道整復師）の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	4人	6.9%
（中途退学の主な理由） 学業不振（就学意欲の喪失）、進路変更（経済的理由による就職を含む。）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1 経済的理由を背景とする学生に対しては、各種教育支援制度（自治体・その他団体による奨学金、福祉資金等）の紹介及び手続支援を実施 2 学業不振による者は、保護者及び実習先と連携し補備教育・個別指導等を実施		

①学科等の情報－5（はり・きゅう学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	はり・きゅう学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,865 単位時間/単位	1,985 単位時間/単位	0 単位時間/単位	880 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2,865 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		30人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1 授業方法及び内容 (1) 授業科目に応じ、講義、実習（部外実習を含む）、実技等を組み合わせて実施 (2) 各授業科目及び授業内容は、段階的・体系的に授業を組み立てるとともに、課題付与、小テスト、レポートの提出により、習熟度を確認している。
2 基礎分野、専門基礎分野、専門分野に区分し、学年ごと履修すべき科目及び単位（時間）を計画している。
成績評価の基準・方法
（概要）
科目に応じて、試験結果、出席日数、課題提出、実技、授業態度等を担当教員が関係教員の意見を踏まえ総合的に評価し、学科での審議、校長の決裁を経て履修認定・成績判定（4段階）を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要）
1 進級の認定 原則として当該学年において履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格している者について、教職員会議で審査し認定している。
2 卒業の認定 次の要件を満たした者について、教職員会議で審査し認定している。 (1) 3年間の履修すべき全授業科目に合格していること。 (2) 卒業試験に合格していること。なお、卒業試験の不合格者に対しては再試験を行い、合格点に達した時点で卒業を認めている。
学修支援等
（概要）
1 オンライン授業（リモート、オンデマンド）及びe-ラーニングを導入
2 特別講義、課外補講、個別指導等による学修意欲の振作、苦手科目の克服
3 ナイトセミナー、集中模擬試験による国家試験対策

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100.0%)	0人 (0.0%)	4人 (80.0%)	1人 (20.0%)
（主な就職、業界等） 医療・福祉（鍼灸院、病院、介護施設等）、教育機関（各養成校）、その他（スポーツトレーナー、美容等）			
（就職指導内容） 1 鍼灸院等人事担当者との面談、卒業生（就職者）による講話 2 就職担当者及び担任教員による就職相談、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家資格（はり師・きゅう師）の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.2%
（中途退学の主な理由） 学業不振（就学意欲の喪失）、進路変更（経済的理由による就職を含む。）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1 経済的理由を背景とする学生に対しては、各種教育支援制度（自治体・その他団体による奨学金、福祉資金等）の紹介及び手続支援を実施 2 学業不振による者は、保護者及び実習先と連携し補備教育・個別指導等を実施		



②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科	300,000円	800,000円	500,000円	
作業療法学科	300,000円	800,000円	500,000円	
言語聴覚学科	300,000円	600,000円	500,000円	
柔道整復学科	300,000円	800,000円	500,000円	
はり・きゅう学科	300,000円	700,000円	500,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校HPの「学校評価」 <a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/evaluation/">http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/evaluation/</a> に記載		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
1 基本方針 学校としての説明責任を果たしつつ、学校関係者の理解と協力を得るとともに、学校運営上の改善の資を得て、教育の質の向上を図る。		
2 実施方法・体制 (1) 学校関係者評価のための組織として事務局を設けるとともに、実務組織として各学科教員及び事務職からなる評価委員会を常設している。 (2) 各年度終了の翌月を基準に、学校関係者を招聘し、教育活動、学生支援、学習環境、募集広報、情報公開等、学校運営全般について評価して頂いている。 (3) 評価結果について取り纏めた後、教職員会議等で全教職員に周知するとともに、学科長会議及び学校各専門委員会において改善策を検討し、該当学科及び所掌部署ごと改善策を実行に移している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉協議会職員	2022. 4. 1～2023. 3. 31	後援会会長
理学療法士	2022. 4. 1～2023. 3. 31	代議員
大学教授	2022. 4. 1～2023. 3. 31	代議員
会社員	2022. 4. 1～2023. 3. 31	代議員
主婦	2022. 4. 1～2023. 3. 31	代議員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校HPの「学校評価」 <a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/evaluation/">http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/evaluation/</a> に記載		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)	
1	学校HP ( <a href="http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/">http://riha.tsuzuki-edu.ac.jp/</a> )
2	各広報業者のWEB媒体 (リクルートスタディサプリなど)
3	学校パンフレット・募集要項
(1)	WEBからの資料請求又は電話請求等により郵送
(2)	進路ガイダンス等において、希望者に配布

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		80人	76人	－
内 訳	第Ⅰ区分	40人	41人	
	第Ⅱ区分	27人	－	
	第Ⅲ区分	13人	－	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				86人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	—	人	人
(備考) 前年度に退学者は2名発生したが、いずれも学校教育法施行規則第26条第2項に該当しない、本人の意思による自主退学によるもの。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。